令和6年度 第1回瑞穂町地域保健福祉審議会

会議録

日時：令和6年7月30日（火）

午後1時30分～午後3時10分

場所：瑞穂町ふれあいセンター 大会議室2、3

会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況について
 - (2) 瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査について
- 4 その他
 - (1) 瑞穂町子ども計画の策定について（子育て応援課）
 - (2) 高校生等の医療費助成事業の助成範囲の拡充について（子育て応援課）
 - (3) 瑞穂町子ども家庭センターについて（子育て応援課）
 - (4) 生活支援事業ニーズ調査について（高齢者福祉課）
 - (5) いのち支える瑞穂町自殺予防行動計画の改定計画について（健康課）
- 5 閉会

出席者【委員】

村井委員	田中委員	小林委員	杉浦委員	高水委員
原委員	海老原委員	飯田委員	石川委員(会長)	小野委員
粕谷委員	小川委員	日野委員	川口委員	森泉委員
石蔵委員	石井委員	川鍋委員	小作委員	宮坂委員
福島委員	目黒委員			

欠席者【委員】

五十嵐委員	鈴木委員			
-------	------	--	--	--

出席者【事務局】

田野福祉課長	上出福祉推進係長	一ノ瀬主事	若松障がい者支援係長
青木子育て応援課長	栗原子育て支援係長	池田保育・幼稚園係長	宮澤児童館係長
島崎子ども家庭支援センター開設担当主幹	吉岡子ども家庭支援センター係長	並木高齢者福祉課長	中村高齢者支援係長
和田施設改修担当主査	千葉地域包括ケア推進係長	鳥海介護支援係長	工藤健康課長

鈴木健康係長	榎本ワクチン接種事業担当主査	片野保健係長	吉岡協働推進課長
池谷地域支援係長 (社会福祉協議会)			

公開・非公開の別

公開

傍聴者

1名

会議録

1 開会

事務局より配布資料の確認。

- (1) 次第
- (2) 瑞穂町地域保健福祉審議会委員名簿
- (3) 資料1-1 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況
- (4) 資料1-2 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況（報告）
- (5) 令和6年度第1回瑞穂町地域保健福祉審議会質疑等について
- (6) 資料2 瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査
- (7) 資料3 いのち支える瑞穂町自殺予防行動計画の改定計画について

2 会長あいさつ

石川会長よりあいさつ。

3 議題

(1) 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況について

〈福祉課長より、資料1-1 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明〉

- ・地域交流、世代間交流の推進
- ・学校関係者等と連携した非行防止、学習支援
- ・相談体制の充実

〈子育て応援課長、子ども家庭センター開設担当主幹より、資料1-1 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明〉

- ・子育て相談の充実
- ・待機児童の解消への取組と保育サービスの充実
- ・地域支援子育て支援事業の充実

〈高齢者福祉課長より、資料1-1 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明〉

- ・高齢者福祉センター寿楽の運営
- ・介護保険制度の適正な運営

・認知症対策の推進

〈健康課長より、資料1-1 瑞穂町第4次地域保健福祉計画の進捗状況に沿って説明〉

- ・切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策事業の推進
- ・健康増進事業の推進

質疑・意見

- ・1-(1)-② 地域における交流の場づくりの推進

「移動スーパーの通知をし、週1回買い物で多くの方が集まっています。」とあり、大変すばらしい取組だと思えます。

高齢になると車の運転もできず、体力もなくなるため移動スーパーには興味があります。詳細を教えてください。

〈社会福祉協議会より回答〉

これは元狭山地区の松山町で実施されている活動です。昨年度から松山町の地域の方と町と社協の生活支援コーディネーターとで複数回、地域懇談会を行いました。大型店舗の閉店により買い物に行く先がないとのニーズから、移動スーパー「とくし丸」に巡回を依頼し実現したものです。

毎週火曜日午後2時から、松山町中心部の個人宅の駐車場のスペースに移動スーパーが到着し、毎回、15人ほどの近所の方が買い物に訪れています。取り扱っている食品は生鮮食品、野菜、乾物、お弁当、お菓子、日用品等となっています。

- ・1-(4)-① 地域交流、世代間交流の推進

ボランティア団体「おひさまキッチンの会」による多世代間交流事業の取組は、令和5年度には前年度から利用者が倍増し、実施校も増えるなど成果が出ています。ニーズもあるため、今後、拡充できると良いと思えました。

①開催頻度を教えてください。

②課題にある安全対策（食品衛生、感染症対策、アレルギー対策、事故等）について、検討内容を教えてください。

③長期休暇中（夏休み等）も開催しているのでしょうか。

④朝食を食べる子どもが増えたり、交流が広がった等、参加者の変化はあったのでしょうか。

〈福祉推進係長より回答〉

① 毎月一回の頻度で開催しました。令和5年度は新たに第三小学校でも実施するようになり、現在、3か所での開催となっています。その他、インフルエンザの流行により中止となった月もありますが、原則、毎月各校1回の開催となっています。

② 食品衛生ですが、ボランティアメンバーに食品衛生資格を有している方がおり、その方の指導のもと、手洗い、三角巾の着用、食器等の消毒等行っています。また、保健所とも連携を図りながら事業を実施しています。

感染症対策としては、参加者に対して手を洗うよう指導し、徹底しています。また、コロナ5類引き下げ前は、パーティションの設置や席の間隔を離すなどの対策を行っていました。

アレルギー対策として、事前に参加申込みをいただく際にアレルギーの有無につ

いて確認をとっています。

事故等の対策としては、行事保険への加入手続きを行っています。

- ③ 長期休暇中は実施していません。例えば8月は2学期が始まってからの開催となっています。
- ④ 参加者アンケートを実施しており、保護者の方からは、「朝食を友達や異なる学年の子と一緒に食べることができるので、楽しみにしている」、「地域の人から支えられ、見守られていることをこれからも教えていきたい」といった声をいただいています。

先生からは「自然とあいさつができるようになった児童が多くなった」、「地域の方との交流を楽しんでいる児童が増えた」「朝食を食べてから授業に参加することで、元気が出たり笑顔が見られたり、とても効果的だと感じた」といった回答をいただいています。

・ 1 - (4) - ① 地域交流、世代間交流の推進

- ①地域づくり補助金の概要や交付条件について教えてください。
- ②町内会・自治会が実施する世代間交流事業について詳細を教えてください。
〈協働推進課長より回答〉

- ① 地域づくり補助金は、瑞穂町地域づくり補助金交付要綱に基づき、瑞穂町の地域特性を活かした住民主体の地域づくりを推進するため、予算の範囲内で交付する補助金です。財源は、殿ヶ谷・石畑・箱根ヶ崎・長岡財産区繰入金を原資としています。

交付条件は、町内会・自治会等が実施する事業活動に対して、要綱別表に定める限度額を上限とし、その要する経費の4分の3に相当する額を交付しています。

対象となる主な事業活動は、瑞穂町夏祭パレード、瑞穂町夏祭パレード仮設トイレ、防災訓練、防犯パトロール、駅伝競走大会等です。

令和5年度の実績として、123件の申請があり、合計1,046万円を交付しています。

- ② 世代間交流事業は、地区単位で実施する子どもと高齢者の集い等に関する事業に対して交付し、限度額は5万円になります。

令和5年度の実績として、瑞穂町むさし野連合会から「武蔵野コミセンまつり」、元狭山地区町内会連合会から「元狭山コミセンまつり」、殿ヶ谷自治会から「寄り合いハウスいこい祭り」、合計3件の申請がありました。

・ 2 - (3) - ④ 定年退職者などへの地域活動参加の機会と情報の提供

「ちょいボラ」は気軽に組み合わせて、空いている時間に経験と能力を生かせるメリットがあり、マッチングがうまくいけば効果的な取組だと思いました。

- ①担い手の年代と参加人数、主な内容、有償の有無を教えてください。
- ②担い手に向けた周知はどのように行っているのでしょうか。

〈社会福祉協議会より回答〉

ちょいボラとは身近なところで、ちょっとした時間でできるボランティア活動のことを呼んでいます。

- ① 担い手の年代は10代から80代までです。主な依頼内容は高齢者世帯などでの

粗大ごみの搬出、電球交換、家具の移動などがあります。また空いた時間でボランティアセンター内にて切手整理、編物を教えるボランティアなどが行われています。

② 担い手に向けた周知は特別行っておらず、実際の依頼はボランティアセンターに登録している方々に直接依頼し、マッチングを行っています。

(2) 瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査について

- ・福祉推進係長より、瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査の概要について説明。
- ・受託業者 株式会社アイアールエスより、瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査項目の概要について説明。

質疑・意見

・問45 「あなたは、日頃から塩分の摂取量に気をつけていますか。(1つに○)

※「健康日本21(第三次)」では、1日あたり平均値7g(令和14年度)を目標としています。」とありますが、7g未満ではないでしょうか。

〈株式会社アイアールエス 吉元氏より回答〉

ご指摘の通り、7.0g未満が正しい表記になります。訂正させていただきます。

全体を通して意見、講評、アドバイス

・各委員より、ご意見等

・村井委員より、全体的な講評、アドバイス。

他の地域の地域福祉保健計画や介護保険事業計画、高齢者福祉計画、障がい者の総合支援に関する計画、子育て支援事業計画等の様々な会議に参加させていただいていますので、トレンドの話と同時に全体としての話をお伝えしたいと思います。

まず、資料1-1の進捗状況についてですが、だいぶ熟れてきましてPDCAサイクルを回す仕組みとしてしっかり機能しているという印象です。そのため次のステップとしてのコメントをさせていただきます。資料の中に「取組指標等について」というページがあり、取組指標が89項目あり効果判定を行っています。審議会では、(2)効果(成果)判定がA「想定した以上に高い成果が得られた」についてしっかり報告するべきだと思います。また、C、D、Eという判定がついた箇所は、改善・対策等に関して審議会で意見をもらうためにも、ピックアップして報告することも大事だと思います。予定通りに進んだBという判定は順調と考えられます。行政計画はやりすぎも良くないですし、やらないすぎも良くないです。そのためあまり差がつかないというのが実態です。そのうえでA判定というのは、非常に力を入れて行ったことに対して効果が出たのか、予想外な効果が出たのかということも考えなければならないですし、C、D、Eという判定は住民に直結する課題が発生する可能性もあるため、そこを審議会で検証し、ご意見をいただく他、それに対する対策を示していくことが大事だと思います。

資料1-1について、令和4年度と5年度の2年間にわたって達成・課題が示され、その課題を受けての実績、その実績をもって次の課題という形で経年変化がしっかり書かれており、かなりPDCAにはなっているのですが、最近の他自治体の計画では、「今後の課題」だけでなく「今後の課題と対策」に変わってきていると同時に、「対策

及び数値目標」が入るようになりました。数値目標を入れてベンチマーキングや到達目標など、何らかの数値を出せるものは数値目標を出して、「上回った、下回った、なぜそうだったのか」といったところを検証しています。すべて数値目標を出せば良いということではなく、数値目標に見合うものに関してということになります。大概、「充実させる必要がある」や「推進する必要がある」といったような言葉で終わってしまうのですが、「推進」とはどこまで推進するのか、「充実」とは何をもって充実したとするのか、難しいですが指標を求め続けることが大事だと思います。横浜市や川崎市も地域福祉計画に意図的に数値目標を入れていますが。数値に対して上回ったり下回ったりすると、そこに対して検証や考え方が深掘りされていくので、ぜひとも今後は課題と具体的な対策、方向性に向かって進んでいるかどうかという途中過程をしっかりと評価する形で行っていただければと思います。また、これを進めていく中で新たに発見された課題や今後計画に盛り込むべき新しい要素が出てきたときには、しっかり次の計画へ反映させることも大事だと思いますし、そういったことを記録に残しておく、推進の途中で次期計画には盛り込まなければならない事項が発生していることをリマインドすることも大事だと思います。

全体を通して、私自身も反省しなければならないことですが、多くの推進の中に「連携」という言葉がたくさん出てきます。「連携」という言葉はうまくぼかしてしまう。ただ、具体的に連携しようとする、だれが、なにを、どこまでどうするのかということ必ず詰めなければならなくなってきました。そうすると実際行うときに大変になってしまいますので、「こういう形の連携をすることが目標」といったような連携の形を事前に可能な限りデザインしておくということ、言い方を変えれば連携に対する明確なモデルイメージと、何をもって連携できたとするのかという物差しを開発しなければならない時期に来ています。

20年間研究して最近発表させていただいた案件として、連携がうまくいった事例とうまくいかなかった事例の違いに関して3つの要素が見つかりました。1つ目は目標と目的が抽象化すると連携は失敗する傾向があり、具体的な精緻な目標を設定して連携を組むと上手くいく傾向があるということが分かってきています。「いつまでも住み慣れた街でいきいきと安心して暮らす」という目標を立てると連携の具体性が出てきません。ところが、80歳以上の高齢者の方の〇〇診断の受診率を〇〇%に上げるというように具体的にすれば、当然何をやるかわかりますし、だれが何をできるかというのもわかってくるので、具体性があればあるほど役割と取り組むべき事項も見えてきて、具体的な目標を持つことで連携は成功します。それから、2つ目は連携に関係する登場人物たちが相手の役割と自分の役割を相互に理解して、ちょうど良い頼み方、ちょうど良い頼まれ方という関係がどこまで形成できているかによって連携がうまくいきます。民生委員さんを例として出しますと、民生委員さんとの連携でこちらが民生委員さんを十分にサポートしつつ、お互いにちょうど良いバランス関係で物事に取り組めたときに連携がうまくいく傾向が見えてきました。3つ目は、それらを支えるコミュニケーションと情報共有の質と量がどこまで保証されているかということです。つまり会議の回数、連絡の回数、情報共有の回数、個人情報などをどこまで共有できているか等、情報のやり取りの密度がたくさんあるかで連携は支えられています。情報と役割分担と目標の明確化、これらの3つのどこかに欠損があると必ず連携が失敗します。連携の明確な尺度や評価資質を用いて具体的に進んだことを示していった

ら良いと思います。計画を作るうえで取組の方法を今後は明確に示していけると取り組みやすくなり、PDCAサイクルがより精度高く回ることを期待しています。

瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケートの件でございますが、非常によくできているアンケートだと思います。ただ、いくつか気になった点、検討いただきたい点というのが、我々が策定している計画の認知度に関しての確認が特になされていないような気がします。なかなか計画を知っている方というのはいらっしゃるのですが、この機会に計画を知っていただき地域住民としてできること、知ることによって興味をもって自らも主体的に動いていただく機会を作っていきたいと願っているうえでは、計画の認知度は少しでも確認していく必要があると思います。

アンケートの中にたくさん「自治会・町内会に期待すること」等のコメントが入っていたのですが、回答者が自治会・町内会に加入しているかというところを確認して、加入者の回答と未加入者の回答で傾向の違いを見つけることで、加入促進に必要な要素が浮き彫りになる可能性が出てきます。自治会・町内会の加入状況は客観的な事実を確認したいところです。

最近では、見守りに関する実践を行っている中で、見守りに関する拒否感や需要感というのがあってほしいなと思っています。UCLA孤独感尺度を今回は入れているようですのでこれは素晴らしいと思います。見守られることに対して需要感があるか、拒否感があるか、重要な話題になっています。一方で、見守りした側も非常に悩んでいる問題というのが、異変を察知しているのですが、それをだれに伝えれば良いのかわからず抱え込んでしまうことです。情報アンカーと呼ばれるアンカーが地域包括なのか、行政なのか、民生委員さんなのか、それとも自治会・町内会の会長さんなのかかわからず、さらにそれを言っているのかという問題に悩んでしまいます。見守りというのは、これから瑞穂町を支える大事な可能性があるもので、見守る人たちの力を高める、見守りセンサー力を上げていく、そしてセンサーがきちんと機能するようになればそれがアンカーと呼ばれる支援者や関係者に伝わっていきます。センサーとアンカーをどう充実させるかというのがこれからの地域福祉の非常に重要な部分です。このことに関してもう少し深堀すると、個人情報保護法が邪魔をしていると言われます。ところが個人情報保護法の第1条を読むと、個人情報を活用して活力ある社会を作ってくださいと書いてあります。福祉のまちづくりをしていこうとするうえで個人情報の誤解を解いていかなければなりません。個人情報保護法の第1条についてアンケートでは聞きにくいと思いますので、啓発だけはしていかなければならないと思います。個人情報保護法が改訂されていますが、第1条を見ると基本は活用してくださいと書いてありますので、そこに関しては地域住民に啓発していくことが大事だと考えています。

4 その他

子育て応援課長より「瑞穂町子ども計画の策定について」「高校生等の医療費助成事業の助成範囲の拡充について」報告。

子ども家庭センター開設担当主幹より「瑞穂町子ども家庭センターについて」報告。

高齢者福祉課長より「生活支援事業ニーズ調査について」報告。

健康課長より「いのち支える瑞穂町自殺予防行動計画の改定計画について」報告。

事務局より今後の予定を連絡。

・令和6年度 第2回 令和7年3月28日（金） 午後2時から

5 閉会